

# 夏秋ピーマンにおける有望品種の検討

農業研究部

## 1. 研究の背景

県内の夏秋ピーマンは施設栽培を中心に「さらら」（日本園研）が主力品種として長年栽培されてきた。しかし、障害果である尻腐れ果の発生が多く問題となっている。そこで、収量、品質、果皮色が「さらら」と同程度で、尻腐れ果が少ない品種の選定を目的に「さらら」、「福緑」（宝種苗）、「UN-607」（横浜植木）の3品種で比較試験を行った。

## 2. 研究成果の内容・普及のポイント

- ・商品果収量は「福緑」、「UN-607」ともに「さらら」と同程度であったが、「福緑」はA品率が低かった（表1）。
- ・尻腐れ果は「福緑」、「UN-607」ともに「さらら」よりも発生率、発生果数が約7割減少し、発生果数は全栽培期間を通じて「さらら」より少なかった（表1、図1）。
- ・果皮色は「UN-607」が「さらら」と近い色であったが、「福緑」は色が薄かった（図2）。
- ・尻腐れ果の発生が少なく、果色が「さらら」に近い「UN-607」が有望品種である。

表1 収量と品質

品種	商品果収量 (kg/a)	商品果数 (個/a)	A品率 (%)	尻腐れ果率 (%)	尻腐れ果数 (個/a)
さらら	922	28448	58	4.6	1485
福緑	976	28279	51	1.5	448
UN-607	986	29436	61	1.1	358

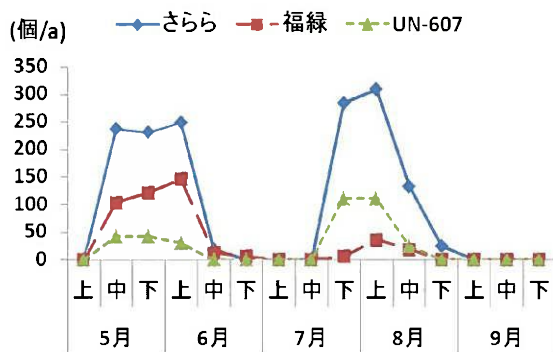


図1 月別の尻腐れ果発生推移



図2 品種別の果皮色

## 3. 期待される効果

尻腐れ果の減少による商品果収量の増加と、農家所得の向上が期待できる。

## 4. 担当機関連絡先

農業研究部 果菜類チーム

TEL: 0974-28-2081

住所: 豊後大野市三重町赤嶺2328-8